

令和2年度第3回富山県障害者施策推進協議会の主な意見

日時：令和3年3月25日（木） 午前10時～午前11時30分

場所：富山県民会館 401号室

○富山県第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画について

- ・数値目標について、「市町村の積み上げ」で目標設定をしているものが多いが、数字が上がっていいものとそうでないものがあり、そのあたりを精査して欲しい。その中で「入所者の削減」については、重症心身障害児者にとって入所施設は最後の砦ということで、最終的には施設入所と考えている。目標数値ありきで走ってもらっては困るということを理解していただきたい。
- ・「避難所運営」について知的障害や発達障害の人にとっては、感染症対策と併せて障害特性に応じた配慮が必要となっており、ワクチン接種を集団で受ける場合などの際も配慮が大事だと思うので、施策の中で見ていただきたいと思う。
- ・地域の健康な人たちもどのように関わったらいいか、どうしたらピアサポーターになれるのかということを考えながら、(活動指標の)「ピアサポート活動への参加人数」が150人という目標値について、その周知や活動を市町村に働きかけて欲しい。
- ・身体障害者相談員の記載があるが、実態としては高齢化しており、80～90歳の人にもお願いしてなってもらっている。現在の相談員が5～10年後も続いているかは見えない。障害者相談員が高齢化しているという実態を県としても理解していただきたい。
- ・障害者の避難について、医療的ケア児を中心に病院で災害時に受け入れをできるように整備していくという考え方が広がっているが、支援なしでは病院単独では取り組みが難しい。全体的にどういった枠組みを作っていくのかを考えていただければと思う。
- ・計画やシステムがあっても、現実的には障害者がこういう施設がある、こういうものがあるということを知らないということを知っていて欲しい。支援が必要な人へのアウトリーチ支援が求められている。
- ・令和2年度はコロナ禍において人材育成にあたってはかなり制限があり、人を育成する、養成することが非常にやりにくい状況があったと思う。なんとか工夫して養成していく、人を増やしていくということを、これからこの3年間の間に数値目標に向けて努力していただけたらと願っているところである。